



第80巻 第2号
 年4回発行
 社会福祉法人 慈生会
 〒165-0022
 東京都中野区江古田3-15-2
 TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
 振替口座 ベタニアの家
 00170-6-15317

コロナ禍における

一年を振り返って

櫻井 正昭

一昨年の一二月に中国の武漢市に端を発した新型コロナウイルスによる感染症は、その後世界中に蔓延し、日本国内においても今年二月末までの感染者は累計四三万人を、死者は七千八百人を超えています。

昨年一月末から感染のニュースが始めましたが、一気に注目されたのは、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が、二週間の船旅中に船内で感染が広がり、横浜港に帰着して、下船させずに封じ込めを図ろうとして、あわただしく対応に追われたからでした。

政府は二月中旬に専門家会議を立ち上げ、本格的な取り組みを開始しました。三月には全国の小中高校が一斉休校になりました。また夏に開催予定だったオリンピック・パラリンピックの一年延期も決まりました。

四月には感染の拡大を受けて、

「緊急事態宣言」が出され、五月下旬まで続きました。国全体の自粛ムードが功を奏して一旦は収束するかに見えたが、宣言解除で気が緩んだのか、再び感染が拡大し始め、八月上旬にピークに達し、その後は増減を繰り返しました。このウイルスは気温が上昇しても勢力が衰えず秋まで続きました。

寒冷で乾燥した冬を迎えて、専門家が警告していた通り、さらに感染が急拡大し、年明け早々には首都圏を始め、中部、近畿、九州の大都市圏を対象に再び「緊急事態宣言」が出されました。大きな山は越えたようですが、現時点でも収束の目途は立っていません。慈生会の各施設もクラスターを出さないために、神経をすり減らす日々が続いています。

このような大きな流れの中で昨年は様々な活動を自粛せざるを得ませんでした。三月の理事会と評議員会が集まることができず、初めて書面審議にしました。四月初めの新任職員オリエンテーションも中止しまし

た。中野地区の近隣の江古田病院に続いて、総合東京病院にもクラスターが発生し、徳田保育園とかベタニアホームには大変な緊張が走りしました。六月の決算の理事会・評議員会も書面審議にしました。毎年恒例の「ベタニアの家」創立記念日のミサ、パーティーも見送らざるを得ず、永年勤続表彰については、ベタニア修道女会の田代総長、慈生会の松本理事長、私と江間総務課長の四人が各施設をまわり、表彰状をお渡しするという方式で行いました。

那須の「聖ヨゼフ山の家」で行ってきた「キリストの心に触れる」研修のパートⅠとⅡ、慈生会幹部研修なども次々中止、夏の恒例行事「納涼祭」とか秋の「敬老祝賀会」なども実施できませんでした。四月に中止した新任職員オリエンテーションは一〇月に、過去一年の入職者を一括して、中野地区二回、清瀬地区二回と那須地区に分けて行いました。

各地区恒例の秋のバザーも休止しました。一二月に練馬文化センター小ホールを予約していた「ベタニアの家・チャリティーコンサート」は、「東星学園の支援」を目的として開催する予定でしたが、残念ながら実施を見合わせるという苦渋の選択をせざるを得ませんでした。

新型コロナの感染防止対策として「ソーシャル・ディスタンス」とい

う言葉が広がり、できるだけ他人との距離を置くことが当たり前になりました。しかし福祉の現場では、高齢者施設も、乳児院、保育園など子どもたちを対象とした施設でも、人と人の触れ合いが基本です。

慈生会の事業は、かつて結核患者が置かれていた悲惨な状況に心を動かされたフロジャク神父の活動から始まりました。確かに新型コロナは治療薬がなく、持病がある患者は急速に重症化して死に至るケースも発生していますが、当時の結核もやはり悪質な伝染病で、治療方法も確立していなかったため致死率も高く、患者は療養所に長期にわたって隔離され、人生を左右するほど多大な影響を受けました。ある意味で新型コロナ以上に恐ろしい感染症だったと言えます。

神父はそのような状況下でも東京市立中野療養所に、患者を見舞うために足繁く通われました。伝染を恐れる看護師が驚くほど、患者の口元に耳を近づけ、苦しい吐息の中で訴える声を聞き取り、慰めの言葉をかけておられたと言われています。

もしフロジャク神父なら、新型コロナが現代社会にもたらす分断、孤立、格差に対して、どのように向き合われるのだろうかと思ひ巡らし、自問する毎日です。

(慈生会常務理事)

電子カルテ導入から 稼働までの道のり ～ボトムアッププロジェクト を経験して～

河野 妃登美

ベトレヘムの園病院は、昨年の十二月一日より、電子カルテを導入し、三年という長い道のりを経て運用を開始しました。

例えば、電子カルテ導入の一員として参加することになったきっかけは、検査科と薬剤科の部門システムの更新をきっかけにプロジェクトを立ち上げることにになり、加わってほしいと声がかかり、手助けになればとの軽い気持ちで参加を決めたことから、この長い三年間のいばらの道が始まりました。

病院に勤務しながら、医療の知識は学んだことがなく、手探りで一からの勉強から始まり、電子カルテ？「病院の診察の時に、医者が問診しながらキーボードを一心不乱に打っている姿」が一番最初に頭に浮かび、その程度の知識からの電子カルテ導入、はつきり言って最初はその程度でした。

先ずは、メーカーに連絡を取り、コンタクトの取れたメーカーからスケジュールを組みデモを行うことから始め、その時点では電子カルテは夢物語の様な状況で、病院全体、現実として捉えている職員は少数だったのではないかと思います。自分自身も知識の裏付けのない状態で出来ることからのスタート、専門書、ネッ

ト、現代の情報網を駆使して現実と向き合うことに専念し、メーカーとの何度もの打合せ、今やるべき事の擦り合わせの連続を重ねながら一つ一つ手探りで進めるのが精一杯でした。

私の役割はおもにハード面が主体で、当院で採用した電子カルテはクラウド型なのでネットワークが繋がっていないと稼働できません。その為、院内のネットワークを一から構築しなければならず、電子カルテが正常に稼働出来るかどうかドキドキでした。それに加えて、パソコン六十台、サーバー六台、プリンター十六台など機器の設置やそれに必要な備品購入など、振り返れば駆け抜けた三年間だったなと感じています。

現在、概ね順調に稼働しています。これは、稼働に向けて職員がトレーニングやリハールを重ねた努力の結果だと思っています。日常業務と並行して行うことは容易ではなかったと思います。私事ではありますが、この歳になって新しいことを覚えるということは難しいのが現状です。それを、今も問題なく使いこなせているのには頭が下がります。

コロナの影響もあり、最近の医療は電子化に向かっていきます。慢性期はまだ導入している病院は少ないのが現状です。でも、ベトレヘムの園病院は早く導入して一歩先を走っています、患者様にも職員にも安全で快適な病院であるために、電子カルテという道具をうまく操っていただけるよう、陰ながら手助け出来ればと思っています。

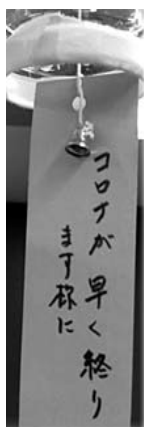
(ベトレヘムの園病院 総務課主任)

見えない敵との戦い (新型コロナウイルス)

富田 浩

昨年は新型コロナウイルスが感染流行し、例年とは異なる一年となりました。現在も感染者の動向やワクチン接種の事で世の中が騒がしくなったり根拠のないフェイクニュースに日常生活が脅かされていますが、まだ感染していない人が人口的には圧倒的に多い事をポジティブに捉え、利用者や職員と励ましあっています。

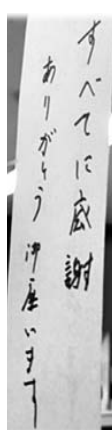
昨年四月、第一回目の緊急事態宣言や近隣病院での院内感染によって多くの利用者がデイホームをお休み



する事となりました。心と身体に様々なストレスを抱えて自粛生活する利用者に対して、少しでも在宅生活を和らいで過ごしていただく為に、母の日と父の日の時期に合わせて脳トレ集を作成し、プレゼントと一緒にデイホームの日常の一コマを自宅へ届けました。次にデイホームの職員を思い出していたく為に、職員がモデルになった体操の資料と脳トレの第二段を作成し、自宅に届けて利用者や家族の心身の変調はないか様子観察し電話連絡も行いました。

今でも感染を懸念して休んでいる方はいますが、多くの方が利用を再開して下さっています。これまで構

築してきた人間関係を継続し向上する為に、デイホームでの感染防止に向けた取り組みとして、出発時にはマスクの着用、自宅又は乗車前に体温測定と手指消毒の実施。送迎車内では換気を行い、降車後には車内の消毒。また、各利用者の平均体温を管理し、三七度以上の発熱や同居家族も普段と異なる症状がある場合には利用を控えていただいています。デイホーム到着後も体温測定と手指



消毒を行い、手洗いうがいをします。座席の配置は対面を避けて飛沫防止のパネルを設置して定期換気しながら咳エチケットに準じたレクリエーションを行っています。感染者の発生時に備えて、濃厚接触者がスムーズに選定できるようマスク着用の状態観察と記録も行っています。

地域福祉や在宅福祉を取り巻く環境は大きく変化し、デイサービスは感染リスクのある3密の環境と認識されて高齢者の交流の場が閉鎖へとなった事業所もあります。しかし、コロナ禍での過ごし方や感染予防対策により、多少は好転してきているように感じています。まだまだ以前の状況には戻ってはいませんが、負の連鎖の縮小を祈りつつ、見えない敵と向き合い、「何ができるのか」「何が求められているのか」を考え、利用者や家族、地域の為に希望を持って実践して行きたいと思っています。(ベタニア・デイ・ホーム 管理者)

キッズの楽しいクリスマス コンサート

中村 英男

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響でベタニアホームの行事はほとんど中止でしたが、ZEROキッズの協力で十二月十九日(土)にクリスマスコンサートを楽しむことができました。

ZEROキッズはホームの隣にある大きなマンションの中にある「江古田もりのいえ」で活動している団体です。子供たちに合唱や演劇を通じて社会教育活動を行っています。

ZEROキッズとホームの関係は、一昨年から、日曜日の午前中にホーム一階の地域交流スペースを練習の場所として貸し出したことからでした。そして、昨年、当初は十二月のクリスマスコンサートをお願いしていましたが、コロナの影響で一時的に中止になったのですが、キッズの皆さんの提案により、ズームコンサートが開催される運びになりました。

ズームでの交流はお互いに初めてで不安もありました。ホームでは二階三階の利用者さんの交流も控えているため、それぞれの食堂にパソコンとプロジェクター、スクリーンを準備し、利用者の方が密にならないよう配慮し、コンサートに臨みまし

キッズのメンバーは四歳〜中一までの七名、ピアノ伴奏の方一名、バリトンの方一名でした。「ジングルベル」「サンタがまちにやってくる」「赤鼻のトナカイ」など十三曲の歌と踊りを披露してくれました。利用者の皆さんも一緒に歌ったり、体を揺らしながら手拍子をしたり、ズームでの子供たちとのやり取りは微妙なところもありましたが、楽しい時間を過ごすことができました。

コロナ禍で約一年、利用者の皆さんには刺激の少ない日常生活を過ごしていたくしかない状況でしたので、とても貴重な時間になったと思います。

今年のクリスマスコンサートは是非ぜひ、一階の交流スペースでZEROキッズの子供たちと利用者の皆さんと一緒に、楽しむことができます。ことを願うばかりです。



※ちなみに、ZEROキッズは一九九三年、中野ZEROホールの開館記念行事がきっかけで結成されたそうです。

(ベタニアホーム 施設長)

Youtubeに聖劇発信!!

田中 崇介

昨年の四月より都内近郊をはじめとして次々と緊急事態宣言が下され、栃木県においても外出自粛が呼びかけられるようになりました。

マ・メゾン光星においても施設内にウイルスを持ち込まないため、職員ならびにご利用者の外出を控える。施設内のイベントは各ファミリールームで行うなど、ファミリールーム間交流を控え、3密を意識した取り組みを行ってきました。

マ・メゾンの一大イベントの一つであるクリスマスミサ・聖劇においても例外ではなく、例年全ご利用者と職員、外部からの参列者が一堂に会することから、当初は開催の中止すら危ぶまれました。

しかし、ただでさえ我慢が続く生活で窮屈さを感じているであろうご利用者を一大イベントで元気づけた。一か月半をかけ、皆で練習してきた、ご利用者のみで演じる聖劇をコロナで中止したくない、という思いがありました。

開催についての検討会上がったのは、午前午後で分かれて御ミサを二回行う案、人数を制限して御ミサにあずかるという案、そして今回実行に至った、流行りの「リモートミサ&聖劇案」です。

現在、世間には様々なリモートミサがあります。その中で選ばれたのは、世間的に認知度が高く、視聴す

る方の垣根の低いもの、そして重要なのはご利用者もなんとなく聞いたことがあるもの、そうYouTubeです。これに出たとすれば、本人達のワクワクも一層高まります。「世界中の人が見るあのYoutubeに出たよ!」と。

慈生会で初の試みということ、大きな期待を背負い緊張しております。



リモート準備中

当日は無事YouTubeによる慈生会限定でのクリスマスライブ配信を行うことができました。ズームのできるビデオカメラのおかげで、リモート参列者は、会場に感じ、聖劇の雰囲気を楽しめたと好評を頂くことができました。また録画を改めて見る機会を設けることで、念願のYoutubeに出演できた喜びを演者の方も実感して頂けたようでした。

今後は、その他のイベントにおいても活用が期待でき、公開範囲を広げれば保護者の方へ、はたまた世界へ。慈生会初のYoutuberが現れる日も遠くないのではと期待しています。

(マ・メゾン光星 生活支援員)

ベタニアの家

四月行事予定

- 1日 ☆聖木曜日
- 1日 慈生会 新任職員
- オリエンテーション 中野地区
- 2日 ☆聖金曜日
- 2日 慈生会 新任職員
- オリエンテーション 清瀬地区
- 3日 ☆聖土曜日 復活徹夜祭
- 4日 ☆復活の主日
- 8日 東星学園中高部 入学式
- 10日 東星学園小学校 入学式
- 11日 ☆神のいづくしみの主日
- 12日 東星幼稚園 入園式
- 25日 ☆世界召命祈願の日
- 29日 《昭和の日》
- 29日 東星学園 ヨゼフ祭 (舞台発表)

五月行事予定

- 1日 ☆労働者聖ヨセフの祝日
- 1日 東星学園 創立記念日ミサ
- 3日 《憲法記念日》
- 4日 《みどりの日》
- 5日 《こどもの日》
- 9日 ☆世界広報の日
- 10、11日 聖ヨゼフ山の家

一般信徒黙想会

16日 ☆主の昇天

22日 ◇アースデー

22日 東星学園小学校 運動会

23日 ☆聖霊降臨の主日

30日 ☆三位一体の主日

六月行事予定

- 5日 ◇世界環境デー (国連)・環境の日 (環境省)
- 5日 東星幼稚園 うんどうかい
- 6日 ☆キリストの聖体
- 9日 慈生会 理事会
- 11日 ☆イエスのみ心
- ベタニア修道女会
- 24日 慈生会 評議員会・理事会
- 25日 設立認可記念日
- ベタニアの家 創立記念ミサ
- 永年勤続表彰
- 29日 ☆聖ペトロ聖パウロ使徒



お知らせ

令和二年より、「ベタニアの家」へ頂いたご寄付は、寄付金控除の対象となります。

新型コロナウイルス感染症に 苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大によって、今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、感染の終息に向けて取り組むすべての人、医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、尽きることのない安らぎに満たされますように。

不安と混乱に直面しているすべての人に、支援の手が差し伸べられま

すように。
希望の源である神よ、わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、世界のすべての人と助け合っ

て、この危機を乗り越えることができようお導きください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。
希望と慰めのよりどころである聖マリア、苦難のうちにあるわたしたちのために祈りください。

(二〇二〇年四月三日)

日本カトリック司教協議会認可)

編集後記



先日の朝、学園の子どもたちを幼稚園に送る機会があった。その途中、子どもたちが飛行機雲を見つけた。「ひこうき雲はなにでできているの?」など、質問攻めに。幼児さんたちには、理解できるような答えを求めたい。理屈の自分か迷っているうちに全然違いうわ、答えられなかった。ホッとした後半、面談の答えを聞いて。また飛行機雲が出てくることに期待。

新年度を迎えるにあたり、「この一年はどのような年になるのだろう」と思いを巡らせた。長引くコロナ禍や自然災害が日常的になった今、不安定要素を挙げればきりがあ